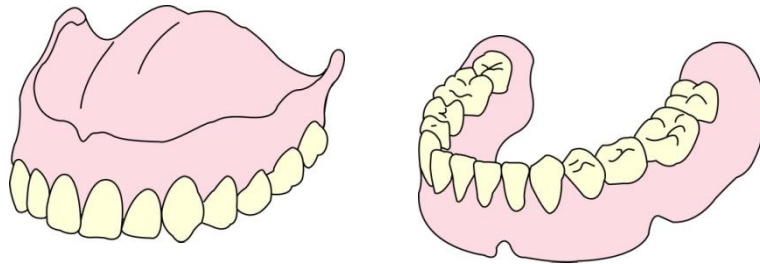


口は健康のもと Vol.176

入れ歯の温故知新 ～日本最古は木製義歯～

皆様は入れ歯（総義歯）がいつ頃から使われていたかご存知でしょうか。現在、確認されている最古の入れ歯は、16世紀に和歌山市の尼僧である仏姫（中岡テイ）が使用していた木製の入れ歯（木床義歯）です。この当時の入れ歯は、蜜蝋で型をとり、黄楊（つげ）など硬い木材を削って作られていました。入れ歯に関しては、わが国が最先端の技術を持っていたことになります。

それでは何故このような文化が形成されたのでしょうか。これには仏教の伝来と金属加工技術の進歩が関連する興味深い逸話があります。当時、仏教が国内に広まり、仏像の需要が高まりました。仏像は木材を彫刻して製作するため、多くの仏師が活躍していました。ところが金属加工技術が進歩し、銅合金などの金属を用いた仏像が多く製作されるようになりました。奈良や鎌倉の大仏が代表例です。仕事がなくなった仏師たちが副業として製作し始めたのが入れ歯であったといわれています。立体的な形を木で作ることの得意な仏師たちであったからこそ、きちんと使える入れ歯を作れたのでしょう。この後、木床義歯はさらに発展してゆきます。続きは次号で。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 教授 山森 徹雄